

JENESYS 2.0 インドネシアへの高校生の派遣 派遣日程 平成 26 年 3 月 17 日（月）～ 3 月 26 日（水）

1. プログラム概要

本事業は「JENESYS2.0」の一環として、日本の高校生 68 名をインドネシア共和国へ派遣し、3 月 17 日から 3 月 26 日までの 9 泊 10 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加校・人数

北海道札幌国際情報高等学校	25 名（うち、引率教員 2 名）
千葉県立国分高等学校	25 名（うち、引率教員 2 名）
兵庫県立国際高等学校	24 名（うち、引率教員 2 名）

3. 訪問地域

ジャカルタ首都特別州及びバンテン州

4. 日程

3 月 18 日（火）

スカルノ・ハッタ国際空港から入国。

3 月 19 日（水）

ジャカルタ州内の高校訪問。

3 月 20 日（木）

ジャカルタ州及びバンテン州内の高校訪問。ホームステイ対面式。

3 月 21 日（金）

ODA サイト等視察。ホストファミリーとの交流。

3 月 22 日（土）

国立博物館、ファタヒラ広場、スダ・クラパ港見学。ホストファミリーとの交流。

3 月 23 日（日）

ホストファミリーとの交流。

3 月 24 日（月）

独立記念塔（モナス）、タマン・ミニ・インドネシア・インダー見学。ワークショップ。

3 月 25 日（火）

報告会、スカルノ・ハッタ国際空港から出国。

5. 写真

	
<p>3/19 学校交流：ジャカルタ第 28 高校</p>	<p>3/19 学校交流：ジャカルタ第 28 高校</p>
<p>School Exchange Programme (SMAN28 Jakarta)</p>	<p>School Exchange Programme (SMAN28 Jakarta)</p>
	
<p>3/19 学校交流：ジャカルタ第 8 高校</p>	<p>3/19 学校交流：ジャカルタ第 8 高校</p>
<p>School Exchange Programme (SMAN8 Jakarta)</p>	<p>School Exchange Programme (SMAN8 Jakarta)</p>
	
<p>3/19 学校交流：ジャカルタ第 78 高校</p>	<p>3/19 学校交流：ジャカルタ第 78 高校</p>
<p>School Exchange Programme (SMAN78 Jakarta)</p>	<p>School Exchange Programme (SMAN78 Jakarta)</p>

	
<p>3/20 学校交流：J-Pop 教授中（ジャカルタ第 77 高校）</p>	<p>3/20 学校交流：ジャカルタ第 77 高校</p>
<p>School Exchange Programme: Teaching J-Pop (SMAN77 Jakarta)</p>	<p>School Exchange Programme (SMAN77 Jakarta)</p>
	
<p>3/20 学校交流：インドネシア楽器体験（ジャカルタ第 112 高校）</p>	<p>3/20 学校交流：ジャカルタ第 112 高校</p>
<p>School Exchange Programme: Experience of Indonesian Musical Instrument (SMAN112 Jakarta)</p>	<p>School Exchange Programme (SMAN112 Jakarta)</p>
	
<p>3/20 学校交流：南タングラン第 2 高校</p>	<p>3/20 学校交流：南タングラン第 2 高校</p>
<p>School Exchange Programme (SMAN2 Tangerang Selatan)</p>	<p>School Exchange Programme (SMAN2 Tangerang Selatan)</p>

	
<p>3/21 ODA サイト視察：鑑識体験（ブカシ警察署）</p>	<p>3/21 ODA サイト視察：女性警察官と巡回連絡（ブカシ警察署）</p>
<p>Observation ODA Site: Fingerprint Examination (The Bekasi Police Office)</p>	<p>Observation ODA Site: Routine Visit in Community with Female Police Officers (The Bekasi Police Office)</p>
	
<p>3/21 NGO サイト視察：クマラ財団紙すき体験（クマラ財団）</p>	<p>3/21 ODA サイト視察：ジャカルタ漁港リハビリ事業（ジャカルタ漁港）</p>
<p>Observation of NGO Site: Paper Making (Kumala Foundation)</p>	<p>Observation of ODA Site: Rehabilitation and Improvement Project (Jakarta Fish Port)</p>
	
<p>3/21 ODA サイト視察：道路建設事業講義（タンジュンプリオク港道路建設事業事務所）</p>	<p>3/21 ODA サイト視察：火力発電所拡張工事講義（タンジュンプリオク火力発電所事務所）</p>
<p>Observation of ODA Site: Lecture on Access Road Project (Office of Tanjung Priok Access Road Construction Project)</p>	<p>ODA Site of ODA Site: Lecture on Gas Field Power Station Extension Project (Office of Tanjung Priok Thermal Power Station Extension Project)</p>

	
<p>3/22 市内視察：国立博物館視察（ジャカルタ市）</p>	<p>3/22 市内視察：スندا・クラパ港（ジャカルタ市）</p>
<p>Observation Tour : Observation of National Museum (Jakarta City)</p>	<p>Observation Tour : Observation of Sunda-Kurapa Port (Jakarta City)</p>
	
<p>3/23 ホームビジット</p>	<p>3/23 ホームステイ</p>
<p>Home Visit</p>	<p>Home Stay</p>
	
<p>3/23 ホームステイ</p>	<p>3/23 ホームステイ</p>
<p>Home Stay</p>	<p>Home Stay</p>

	
<p>3/24 市内視察：タマン・ミニ・インドネシア・インダー（ジャカルタ市）</p>	<p>3/24 市内視察：タマン・ミニ・インドネシア・インダー（ジャカルタ市）</p>
<p>Observation Tour: Taman Mini Indonesia Indah (Jakarta City)</p>	<p>Observation Tour: Taman Mini Indonesia Indah (Jakarta City)</p>
	
<p>3/24 ワークショップ</p>	<p>3/25 成果報告会</p>
<p>Workshop</p>	<p>Reporting Meeting</p>
	
<p>3/25 成果報告会</p>	<p>3/25 成果報告会</p>
<p>Reporting Meeting</p>	<p>Reporting Meeting</p>



3/25 成果報告会：ホームステイ感想発表

Reporting Meeting: Impression about home stay



3/25 成果報告会：ホームステイ感想発表

Reporting Meeting: Impression about home stay

6. 参加者の感想（参加者の感想文の抜粋）

北海道札幌国際情報高等学校

・日本の学生もインドネシアの学生も、変わらないと実感した。英語でのコミュニケーションに壁があると感じたのは最初だけだった。互いに通じてないと思ったら、理解しよう、もっと分かりやすく話そう、という姿勢ができていた。英語が話せるから海外の人と繋がることのできるのではなく、互いに理解しようとする気持ちがあるかないかで繋がることのできるのだと痛感した。それまで抱いていた固定観念を良い意味で壊せた。宗教のことについて勘違いしていた部分があった。イスラム教という宗教は、厳しく正直関わり難いのでは、という気持ちがあったが、ただの想像にすぎなかった。温かくやさしかった。学校交流中、インドネシアの学生から、「桜は咲いているのか。」と聞かれた。日本のほとんどの地域は咲いているけど、私の住んでいる地域はまだ咲いていないと伝えると、たくさんさんの疑問や興味を示してくれた。充分ではない英語力だが、日本のことを伝えていければいいと思う。ホームビジット先の家族が無宗教だったのか、イスラム教という宗教に触れる機会が少なかった。ホームビジット先の宗教がイスラム教であれば、イスラム教について多くのことを吸収できたと思う。

・私はインドネシアに訪問したことで自分がどれだけ恵まれた環境にいるかを改めて知り、また、いろいろなことに驚きました。まず一つ目はインドネシアの貧困層の人々の生活です。ジャカルタの中心部は思っていたよりも都会的でしたが、そこから少し離れた地域では、ごみは分別されずに家の横に放置され、住んでいる家もボロボロでした。さらに、特定のごみ処理をしている人たちがいて、その人たちは決まった集落に住んでいることを知りました。また、バスで移動中、女の人が窓を叩いてお金を要求して来たり、車通りの激しい通りで小さな子供たちが新聞を売っていたりなど、日本では考えられないような光景をたくさん目にしました。二つ目は水道水です。インドネシアは水道の整備が十分に整っておらず、現地の人でさえ、水道水を直接口にすることができません。歯磨き、シャワー、トイレも大変でした。三つ目はインドネシアの人々の日本への強い興味です。インドネシアの人々は日本のアニメや漫画はもちろん、日本の有名な物や人など様々な分野を、本当によく知っていました。また、日本語を勉強している人もたくさんいて、とても嬉しかったです。私は自分自身が直接見て知ったこと、感じたことをこれからたくさんの人に伝えていきたいと考えています。そして、誰かに伝える時には、相手に自分の想いがきちんと伝わっているかどうかを確認しながらしていきたいと思います。

千葉県立国分高等学校

・インドネシアの交通事情に驚きました。車が優先な上、信号がほとんど無く、道路を渡る時は苦労しました。しかし今は信号を増やすなど改善されてきていると大使館で聞いたので安心しました。インドネシア人の日本人に対する印象が「規律正しい」「一生懸命働いている」と言われた時はとても嬉しかったです。私のインドネシア人に対する印象は「日本人に優しく、積極的に話しかけてくれてフレンドリー」です。ジャカルタの寿司屋でイ

インドネシアの人がお醤油に唐辛子を大量に入れたうえにワサビを入れたのを見た時、辛い物好きな国民ならではの食べ方なのだと感じました。インドネシアの文化としてアングロンという竹の楽器やバティックという布が印象に残りました。アングロンは手で振って振動させて音を出すのですが、一つ一つの楽器の音が違うそうです。実際にインドネシアの学生の演奏を聞かせてもらいましたがとても良い音色でした。バティックはインドネシアの伝統的な布で、実際に模様を描く体験をしましたが、ロウを溶かしてインクのように使うので口が垂れてしまい、せっかくの絵が台無しになってしまい、かなり難しかったです。インドネシアの人や文化に触れることができ、私自身とても充実したインドネシア派遣でした。

・最も印象に残ったことは宗教についてです。学校訪問の時に実際の礼拝の様子を見て、ムスリムの人達にとって礼拝はとても重要で神聖なのだという印象を強く受けました。雰囲気は実際に現地に行ってみないと感じられない特別な空気感がありました。また学校訪問では伝統舞踊を披露して頂きました。特にサマダンズは声や拍手に迫力があり踊りが揃っていて、とてもインパクトがあり圧倒されました。この踊りに私は感動と衝撃を受けました。そしてこの踊りをみんなに「見てほしい」「知ってほしい」「映像ではなく生で音や動きを感じてほしい」と思いました。帰国後の学校発表の時にインドネシアに行ったメンバーで、自分達が見た物にできるだけ近づけた踊りを披露したいと思っています。最後に服装についてです。イスラム教については学校の授業で学んでいたのである程度の知識はありましたが、人によって半袖を着ていたり、布で髪の毛を覆っていなかったりと様々でした。また毎日きちんと5回お祈りする人もいれば、全くしない人もいました。人によって信仰の度合いに違いがあり、時代の流れのようなものかなと思いました。今回のプロジェクトに参加して、日本の人にインドネシアについてもっと知ってもらいたいと思いました。そして伝える時は自分が現地に行って新しく発見したことや、現地に行ったからこそ感じる事ができたインドネシアの人柄や環境などについて伝えていきたいと思えます。

兵庫県立国際高等学校

・私は、自分の中にある途上国に対する偏見や先入観を変えないといけないと思いました。インドネシアに行くまでは、治安が悪く、すれ違う人のほとんどがスリで、夜の街中は真っ暗だと思っていました。しかし、実際は違いました。確かに日本と比べると治安は良くなく、スリも多いかもしれない、けれど日本と同じくらい親切で優しい人がいました。また、夜の街は看板の明かりでキラキラと光っていました。途上国には今でも問題は多く残っているけれど、悪いところばかりではないと思っています。そして、途上国＝良くないところばかりと思っている人に、このことを知ってほしいと思いました。逆に、日本に対して外国人は、日本＝サムライというイメージを強く持つのかな、と思いました。日本に興味があるホームステイ先の高校生でさえも、「日本に侍は今いるの？」と聞いてきました。その友達にサムライについて説明しているとき「日本を発信するっておもしろい！」と感じました。相手が知らない日本について、また相手が知っている日本について、国の魅力を共有することはとても楽しかったです。また、インドネシアで交流した高校生たちが、インドネシアの伝統文化にとっても詳しいことを知り、日本に関する自分の知識がいかに少

ないかということに気づき、とても恥ずかしかったです。そのため、私自身、日本についてもっと知りたいと思いました。そして、日本のことを、日本人にも外国人にも、もっと知ってもっと好きになってほしいと思いました。そのために、これからも身近な人から、どんどん多くの人に、日本の魅力を発信していきたいと思います。

・私はインドネシア派遣のプログラムに参加して多くのことを学ぶことができました。今まで16年間生きてきて海外に行った人たちから「自国の文化を理解できていなかった」「自分の能力の無さを痛感した。」などといった言葉はよく耳にしてきました。私はまったく同じことをこの研修で感じました。過去の私と今の私の違いは『経験』です。やはり人は身をもって体験し、それを自分の経験というカテゴリーに分類しない限り本物はできないと痛感しました。この10日間、いえ準備期間も合わせこの二カ月近くに及ぶ日々は私だけのものです。同じものを見ても感じ方は十人十色でしょう。多くの同じ経験をし、自分だけのものにした22個の思い出たち（私の学校からは生徒22人が派遣されました。）はキラキラと永遠に自分の中で輝き続けます。それは決して楽しいことばかりでなく自分自身を成長させてくれた辛いことや大変なことがあるからです。そして自分たちの甘さに気付きました。私たちは産まれた瞬間からこの恵まれた国で生きてきました。しかし彼らは自分たちでこの国を進化させるしかないという環境下だからこそ、色んな事に対する姿勢が違っていました。私たちが今の状態に甘え続け努力を怠ったら、近い未来、日本は本当に先進国と呼ばれているのでしょうか。私たちの世代がよりこの国を昇華させなくてはならないと思いました。さらにたくさんの方が日本に対して色々な事に興味関心を抱き好意を寄せてくれていることを知り、その想いに応えたいです。この研修は私を大きく成長させてくれました。これは私のみならず参加者全員に言えるでしょう。この研修で学び取ったことをこれからの私に活かしていきたいです。